

KADOMA PHOTO NEWS

コロナ禍で生まれた 高校生とお年寄りの文通

門真なみはや高校で福祉科目を選択している28人の生徒が、外出自粛で閉じこもりがちなお年寄りを励ましたいと「心でつながる文通プロジェクト」に取り組んでいます。プロジェクトは福祉科目を担当する山村裕子先生が「ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会」に相談して実現。5月末、「一日も早く素敵な日常が戻りますように」「お身体にお気をつけてお過ごしください」といったお手紙が、特別養護老人ホームの入居者や一人暮らしの高齢者に届けられました。受け取った方は「本当に嬉しい」「家宝にします」と繰り返し読むなど涙声で喜ばれていたそうです。6月末には高齢者からのお返事が実行委員会により生徒に手渡されました。103歳の方のお返事を届けたナーシングホーム智鳥のケアマネジャー東中屋みどりさん(下写真右端)は「生まれ育ったこのまちで、人と人



が関わることの喜びを子どもたちに知ってほしいと思っていたので、生徒さんが喜んでくれているのを見て嬉しいです」とお話しされました。「いつか会いたい」という声がお互いから出ており、9月頃に交流会が計画されています。



戻った居場所 子ども食堂再開

6月30日、洋食屋ぷていあづいよん(速見町)で「オムライスおじさんのタマリ場」(子ども食堂)が3カ月ぶりに再開されました。この取り組みは店長の中山文寛さんが「子どもたちの居場所をつくりたい」と2017年にスタートしたもので、年12回、60食限定で子どもたちに夕食を無料で提供しています。「いつでも話し聞くとよ」という中山さんは、「タマリ場」がない日に子どもが来ても時間をとってしっかり話を聞くようにしています。「子どもたちには各々に合った居場所が必要です。子どもたちの居場所になるいろんな活動が早く再開されて元の門真に戻ってほしいですね」と話されました。参加した小学生に感想

を聞くと「みんなで食べるとめっちゃ楽しい!」と満面の笑みで教えてくれました。



先生と子どものために 中学校で保護者がトイレ清掃



小中学校では児童生徒への新型コロナウイルス感染を防ぐために、トイレの消毒や掃除を先生が毎日行っていますが、第二中学校では先生の負担を軽くしようと、保護者がボランティアでトイレ清掃を行っています。この取り組みはPTA会長の加藤諭さんのお手紙で呼びかけ7月8日から週2回実施。参加は自由で、集まった人が7カ所のトイレの清掃を分担します。除菌洗剤を使

って便器だけでなく床から壁までピカピカに磨かれていました。参加した井口啓子さん、三好由美さん、寺地雅子さんは「先生がトイレ掃除してるなんて知りませんでした。子どもがお世話になってるし『こんな機会もらえるなら』という感じで恩返しです。みんなと一緒にできるから楽しんでいます」と明るく話されました。上甲尚校長は「おかげで教職員の負担はだいぶ軽くなりました。役員とか関係なくたくさんの方が参加してくれています。保護者の皆さんにはホンマに感謝感謝です」と話されました。

